

国立民族学博物館研究報告 vol.21-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	21
号	2
発行年	1997-01-14
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009186

1996—21.2号

国立民族学博物館 研究報告



北部タイ、チエンコーンにおけるブラー・ブック (*Pangasianodon gigas*)
の民族魚類学的考察——赤木 攻, 秋道智彌, 秋篠宮文仁, 高井康弘

雲南のクツォン人と北部インドシナの採集狩猟民
——古い伝統か文化的退化か——大林太良

物質文化からの民族文化誌的再構成の試み
——クリールアイヌを例として——小杉 康



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

21 卷 2 号

1996 年

目 次

北部タイ、チェンコーンにおけるプラー・ブック (<i>Pangasianodon gigas</i>) の民族魚類学的考察 ……………赤木 攻, 秋道智彌, 秋篠宮文仁, 高井康弘…………	293
雲南のクツォン人と北部インドシナの採集狩猟民 —古い伝統か文化的退化か—……………大林太良…………	345
物質文化からの民族文化誌的再構成の試み —クリールアイヌを例として—……………小杉 康…………	391
彙 報 ……………	503
国立民族学博物館研究報告寄稿要項 ……………	510
国立民族学博物館研究報告執筆要領 ……………	511

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 21 No. 2

1996

- AKAGI, Osamu An Ethnoichthyological Study of *Pla Buk*
AKIMICHI, Tomoya (*Pangasianodon gigas*) at Chiangkhong, North-
FUMIHIITO, Akishinonomiya ern Thailand 293
TAKAI, Yasuhiro
- OBAYASHI, Taryo The Kucong in Yunnan and Hunter-Gatherers in
Northern Indochina: Do They Represent an Old
Cultural Tradition or a Case of Cultural Devolu-
tion? 345
- KOSUGI, Yasushi Ethnographic Reconstruction from the Material
Culture of the Kuril Ainu 391

彙 報 (平成8年4月～平成8年6月)

人事異動

(行政職)

(昇任)

4月1日 管理部庶務課課長補佐 岡田 正紀
(大阪大学総務部総務課総務係長)

(配置換)

4月1日 管理部長 小村久米夫
(金沢大学経理部長)
大阪大学経理部長 東府 義之
(管理部長)
大阪大学総務部人事課課長補佐 宮下 富夫
(管理部庶務課課長補佐)

(教育職)

(名誉教授称号授与)

4月1日 藤井 知昭
大丸 弘
友枝 啓泰

(採用)

4月1日 地域研究企画交流センター助手 帯谷 知可

(昇任)

4月1日 第三研究部教授 松山 利夫
(第一研究部助教授)
第四研究部教授 石森 秀三
(第四研究部助教授)
地域研究企画交流センター助教授 大津留智恵子
(大阪教育大学講師)

(転任)

4月1日 第二研究部助教授 西尾 哲夫
(東京外国語大学助教授)

5月11日 地域研究企画交流センター助手 阿部 健一
(京都大学助手)

(配置換)

4月1日 第二研究部教授 端 信行
(第三研究部教授)
第五研究部助教授 田村 克己
(第二研究部助教授)

(併任)

4月1日 企画調整官 杉村 棟
(副館長)
第二研究部長 端 信行
第四研究部長 小山 修三

(客員研究部門)

4月1日 第五研究部教授 櫻井 哲男
(熊本大学教授)
第五研究部教授 八村廣三郎
(立命館大学教授)
第一研究部助教授 長谷川 清
(聖徳学園岐阜教育大学助教授)
第一研究部助教授 煎本 孝
(北海道大学助教授)
第三研究部助教授 竹沢尚一郎
(九州大学助教授)

(外国人客員研究部門)

4月1日 第五研究部教授 高 恵 星
(アメリカ合衆国, イーストロック (東アジア研究) 研究所所長)

〈任期 8. 4. 1～9. 3.31〉

4月15日 第五研究部助教授 色 音
(中華人民共和国, 中国社会科学院民族研究所副研究員)

〈任期 8. 4.15～9. 3.31〉

5月27日 第五研究部教授 BECKWITH, Christopher
(アメリカ合衆国, インディア)

ナ大学中央ユーラシア学部教授)

〈任期 8. 5.27~8.12.15〉

6月17日 第五研究部助教授

SCHNELL, Scott Randall

(アメリカ合衆国, アイオワ州立大学人類学科助教授)

〈任期 8. 6.17~9. 6.15〉

(任期満了)

5月15日 第五研究部助教授

TAYLOR, Luke

(オーストラリア, オーストラリア国立博物館研究開発主任学芸員)

〈任期 7. 5.30~8. 5.15〉

評議員 (8. 7. 1 現在)

氏名	任期
石井 進	(6. 9.15~8. 9.14)
石川 榮吉	(6. 9.15~8. 9.14)
伊藤 幹治	(6. 9.15~8. 9.14)
井村 裕夫	(6. 9.15~8. 9.14)
上山 春平	(6. 9.15~8. 9.14)
梅原 猛	(6. 9.15~8. 9.14)
大西 昭男	(6. 9.15~8. 9.14)
岡田 節人	(6. 9.15~8. 9.14)
加藤 秀俊	(6. 9.15~8. 9.14)
金森順次郎	(6. 9.15~8. 9.14)
北村 甫	(6. 9.15~8. 9.14)
木田 宏	(6. 9.15~8. 9.14)
木村 重信	(6. 9.15~8. 9.14)
祖父江孝男	(6. 9.15~8. 9.14)
坪井 清足	(6. 9.15~8. 9.14)
中根 千枝	(6. 9.15~8. 9.14)
樋口 敬二	(6. 9.15~8. 9.14)
本間 長世	(6. 9.15~8. 9.14)
宮田 満雄	(6. 9.15~8. 9.14)

運営協議員 (8. 7. 1 現在)

氏名	任期
井上 忠司	(6.11.16~ 8.11.15)

牛島 巖	(6. 9.15~ 8. 9.14)
大貫 良夫	(6. 9.15~ 8. 9.14)
白石太一郎	(8. 5.16~10. 5.15)
田中 二郎	(6. 9.15~ 8. 9.14)
谷 泰	(8. 4. 1~10. 3.31)
長島 信弘	(6. 9.15~ 8. 9.14)
日野 舜也	(6. 9.15~ 8. 9.14)
細野 昭雄	(8. 4. 1~10. 3.31)
松園万亀雄	(6. 9.15~ 8. 9.14)
宮田 登	(6. 9.15~ 8. 9.14)
石毛 直道	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
栗田 靖之	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
黒田 悦子	(6. 9.15~ 8. 9.14)
小山 修三	(8. 4. 1~ 8. 9.14)
崎山 理	(8. 4. 1~10. 3.31)
杉田 繁治	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
杉村 棟	(6. 9.15~ 8. 9.14)
端 信行	(8. 4. 1~10. 3.31)
松原 正毅	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
和田 正平	(6. 9.15~ 8. 9.14)

顧問

梅棹 忠夫 (5. 4. 1~)

懇話会委員 (8. 7. 1 現在)

氏名	任期
粟津 潔	(8. 7. 1~10. 6.30)
井上 義國	(8. 7. 1~10. 6.30)
岡田 善雄	(8. 7. 1~10. 6.30)
勝井 三雄	(8. 7. 1~10. 6.30)
川添 登	(8. 7. 1~10. 6.30)
黒川 紀章	(8. 7. 1~10. 6.30)
小林 公平	(8. 7. 1~10. 6.30)
小林庄一郎	(8. 7. 1~10. 6.30)
小松 左京	(8. 7. 1~10. 6.30)
谷口 文夫	(7. 7. 1~ 9. 6.30)
津田 和明	(8. 7. 1~10. 6.30)
西尾 正也	(8. 7. 1~10. 6.30)
堀切 民喜	(8. 7. 1~10. 6.30)
山下 俊彦	(8. 7. 1~10. 6.30)
山本 信孝	(8. 7. 1~10. 6.30)
湯浅 叡子	(8. 7. 1~10. 6.30)

彙 報

情報システム運営委員 (8. 7. 1 現在)

氏 名	任 期
伊東 太作	(8. 7. 1~10. 6.30)
井上 如	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
及川 昭文	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
大林 太良	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
国井 利泰	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
柴田 正美	(7.11.16~ 9.11.15)
長尾 眞	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
中野 照海	(6.10. 1~ 8. 9.30)
中山 和彦	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
八村廣三郎	(6.10. 1~ 8. 9.30)
星 仰	(7.11.16~ 9.11.15)
松村多美子	(8. 7. 1~10. 6.30)
吉田 将	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
杉村 棟	(8. 4. 1~ 9. 3.31)
栗田 靖之	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
石毛 直道	(7. 5. 1~ 9. 4.30)
小山 修三	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
杉田 繁治	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
藤井 龍彦	(8. 7. 1~10. 6.30)
松原 正毅	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
長野 泰彦	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
久保 正敏	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
小村久米夫	(8. 4. 1~10. 3.31)

国内資料調査委員 (8. 7. 1 現在)

氏 名	任 期
飯島 康夫	(7. 4. 1~9. 3.31)
石塚 尊俊	(7. 4. 1~9. 3.31)
泉 房子	(7. 4. 1~9. 3.31)
犬塚 幹士	(7. 4. 1~9. 3.31)
今村 充夫	(7. 4. 1~9. 3.31)
岩井 宏實	(7. 4. 1~9. 3.31)
岩崎 真幸	(7. 4. 1~9. 3.31)
大城 学	(7. 4. 1~9. 3.31)
大村 和男	(7. 4. 1~9. 3.31)
柏村 祐司	(7. 4. 1~9. 3.31)
勝部 正郊	(7. 4. 1~9. 3.31)
萱野 茂	(7. 4. 1~9. 3.31)
神崎 宣武	(7. 4. 1~9. 3.31)
木崎 和廣	(7. 4. 1~9. 3.31)

木下 尚子	(7. 4. 1~9. 3.31)
倉田 亨	(7. 4. 1~9. 3.31)
小泊 立矢	(7. 4. 1~9. 3.31)
坂本 育男	(7. 4. 1~9. 3.31)
坂本 正夫	(7. 4. 1~9. 3.31)
佐々木長生	(7. 4. 1~9. 3.31)
佐野 賢治	(7. 4. 1~9. 3.31)
篠原 徹	(7. 4. 1~9. 3.31)
下野 敏見	(7. 4. 1~9. 3.31)
杉本 尚次	(7. 4. 1~9. 3.31)
高橋 克夫	(7. 4. 1~9. 3.31)
立平 進	(7. 4. 1~9. 3.31)
田中忠三郎	(7. 4. 1~9. 3.31)
鶴藤 鹿忠	(7. 4. 1~9. 3.31)
名久井文明	(7. 4. 1~9. 3.31)
西村 綏子	(7. 4. 1~9. 3.31)
野口 光敏	(7. 4. 1~9. 3.31)
野村 史隆	(7. 4. 1~9. 3.31)
藤本 英夫	(7. 4. 1~9. 3.31)
本庄 清志	(7. 4. 1~9. 3.31)
山路 興造	(7. 4. 1~9. 3.31)
米田 実	(7. 4. 1~9. 3.31)
和田 正洲	(7. 4. 1~9. 3.31)

館内各種委員会 (8. 7. 1 現在)

○長期計画策定特別委員会委員

佐々木高明	石毛 直道	中牧 弘允
秋道 智彌	長野 泰彦	杉村 棟
端 信行	栗田 靖之	田邊 繁治
杉島 敬志	柄木田明子	吉田 憲司
林 勲男	杉田 繁治	田村 克己
久保 正敏	吉田 集而	小村久米夫
東 正憲	伊藤 憲彦	井上 信一
山岸 大紘	木村 伸夫	小早川良規
阿部 雅機		

○標本資料委員会委員

端 信行	大塚 和義	寺田 吉孝
西尾 哲夫	野村 雅一	南 真木人
松山 利夫	藤井 龍彦	林 勲男
森田 恒之	園田 直子	吉本 忍
井上 信一	木村 伸夫	阿部 雅機

○映像・音響資料委員会委員

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 杉田 繁治 | 岸上 伸啓 | 笹原 亮二 | 小長谷有紀 | 朝倉 敏夫 | 田邊 繁治 |
| 福岡 正太 | 寺田 吉孝 | 庄司 博史 | 塚田 誠之 | 上杉 富之 | 江口 一久 |
| 三島 禎子 | 吉田 憲司 | 佐々木史郎 | 杉本 良男 | 新免光比呂 | 三島 禎子 |
| 大森 康宏 | 吉本 忍 | 東 正憲 | 清水 昭俊 | 石森 秀三 | 佐々木史郎 |
| 井上 信一 | 小早川良規 | 阿部 雅機 | 林 勲男 | 山本 紀夫 | 泉 幽香 |
| 福川 圭子 | | | 福川 圭子 | 吉田 集而 | 伊藤 憲彦 |
- 図書委員会委員
- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小山 修三 | 重松真由美 | 池谷 和信 | 石毛 直道 | 端 信行 | 和田 正平 |
| 塚田 誠之 | 横山 廣子 | 杉本 良男 | 小山 修三 | 杉田 繁治 | 栗田 靖之 |
| 柄木田明子 | 黒田 悦子 | 八杉 佳穂 | 松原 正毅 | 小村久米夫 | 東 正憲 |
| 福川 圭子 | 崎山 理 | 村上 勇介 | 伊藤 憲彦 | 井上 信一 | 山岸 大紘 |
| 井上 信一 | 小早川良規 | 阿部 雅機 | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 阿部 雅機 |
- 国内資料調査委員会委員
- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 栗田 靖之 | 熊倉 功夫 | 大塚 和義 | 石毛 直道 | 端 信行 | 和田 正平 |
| 中牧 弘允 | 秋道 智彌 | 近藤 雅樹 | 小山 修三 | 杉田 繁治 | 栗田 靖之 |
| 笹原 亮二 | 松山 利夫 | 小山 修三 | 松原 正毅 | 小村久米夫 | 東 正憲 |
| 吉田 憲司 | 佐藤 浩司 | 山本 紀夫 | 伊藤 彦 | 井上 信一 | 山岸 大紘 |
| 井上 信一 | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 阿部 雅機 |
- 情報化委員会委員
- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 杉田 繁治 | 岸上 伸啓 | 笹原 亮二 | 和田 正平 | 中牧 弘允 | 田邊 繁治 |
| 立川 武蔵 | 上杉 富之 | 庄司 博史 | 藤井 龍彦 | 崎山 理 | 大森 康宏 |
| 南 真木人 | 黒田 悦子 | 佐藤 浩司 | 小村久米夫 | 伊藤 憲彦 | |
| 久保 正敏 | 山本 泰則 | 押川 文子 | | | |
| 小村久米夫 | 井上 信一 | 木村 伸夫 | | | |
| 小早川良規 | 阿部 雅機 | | | | |
- 展示委員会委員
- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 石毛 直道 | 大塚 和義 | 熊倉 功夫 | 栗田 靖之 | 石毛 直道 | 田邊 繁治 |
| 中牧 弘允 | 栗田 靖之 | 立川 武蔵 | 端 信行 | 栗本 英世 | 久保 正敏 |
| 吉田 憲司 | 清水 昭俊 | 森田 恒之 | 吉田 憲司 | 清水 昭俊 | 小村久米夫 |
| 崎山 理 | 田村 克己 | 小村久米夫 | 伊藤 憲彦 | 木村 伸夫 | 阿部 雅機 |
- 広報・事業委員会委員
- | | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 和田 正平 | 秋道 智彌 | 近藤 雅樹 | 栗田 靖之 | 石毛 直道 | 田邊 繁治 |
| 平井京之介 | 横山 廣子 | 西尾 哲夫 | 杉田 繁治 | 大森 康宏 | 久保 正敏 |
| 野村 雅一 | 栗本 英世 | P.マシウス | 山本 泰則 | 山田 睦男 | 小村久米夫 |
| 石森 秀三 | 八杉 佳穂 | 久保 正敏 | 東 正憲 | 伊藤 憲彦 | 井上 信一 |
| 泉 幽香 | 大都留智恵子 | 小村久米夫 | 山岸 大紘 | 木村 伸夫 | 小早川良規 |
| 東 正憲 | 伊藤 憲彦 | 井上 信一 | 阿部 雅機 | | |
| 木村 伸夫 | 阿部 雅機 | | | | |
- 出版委員会委員
- | | | | | | |
|-------|-------|-------|--|--|--|
| 小山 修三 | 秋道 智彌 | 長野 泰彦 | | | |
|-------|-------|-------|--|--|--|

彙 報

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
長野 泰彦	教 授 (第一研究部)	8. 4. 6	8. 4. 8	台湾
秋道 智彌	教 授 (第一研究部)	8. 4.17	8. 4.23	タイ
寺田 吉孝	助 手 (第二研究部)	8. 4.22	8. 6.14	アメリカ合衆国
小山 修三	教 授 (第四研究部)	8. 4.23	8. 4.30	アメリカ合衆国
長野 泰彦	教 授 (第一研究部)	8. 4.24	8. 5. 8	中華人民共和国
中牧 弘允	教 授 (第一研究部)	8. 4.28	8. 5.10	スペイン, イギリス, 香港
田村 克己	助教授 (第五研究部)	8. 5. 4	8. 5.14	ラオス
石森 秀三	教 授 (第四研究部)	8. 5.10	8. 5.17	タイ
佐々木高明	館 長	8. 5.20	8. 5.27	中華人民共和国
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	8. 5.20	8. 5.27	中華人民共和国
秋道 智彌	教 授 (第一研究部)	8. 5.20	8. 5.28	台湾
大森 康宏	教 授 (第五研究部)	8. 5.22	8. 7.13	フランス
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	8. 5.28	8. 6.14	イギリス, トルコ, モロッコ
臼杵 陽	助教授 (地 域 研)	8. 5.28	8. 6. 5	イスラエル
岸上 伸啓	助教授 (第一研究部)	8. 6. 4	8. 8. 1	カナダ
池谷 和信	助 手 (第一研究部)	8. 6. 6	8. 7. 6	ボツワナ, ケニア, 南アフリ カ
田邊 繁治	教 授 (第二研究部)	8. 6.15	8. 6.30	ベトナム, タイ
平井京之介	助 手 (第一研究部)	8. 6.15	8. 7.31	ベトナム, タイ
森田 恒之	教 授 (第五研究部)	8. 6.15	8. 6.27	ベトナム, ラオス
大津留智恵子	助教授 (地 域 研)	8. 6.24	8. 7. 3	アメリカ合衆国, カナダ
立川 武藏	教 授 (第二研究部)	8. 6.25	8. 7. 7	ネパール
長野 泰彦	教 授 (第一研究部)	8. 6.27	8. 6.30	中華人民共和国
山田 睦男	教 授 (地 域 研)	8. 6.28	8. 7.14	メキシコ, アメリカ合衆国

来館者抄

4月5日	POBLACION, Escamilla Jesus Ignacio (メキシコ, 観光省観光研究統計部部長)	局長)
4月8日	BLANDIN, Patrick (フランス, 国立自然史博物館グランド・ギャラリ部長), PISANI, Camille (国立自然史博物館グランド・ギャラリ展示課長)	
4月15日	小川平四郎 (社団法人日中協会副会長), 小川 嘉子 (国立教育研究所研究協力者, 日中間人会議教育情報交流委員会事務	
4月17日	三浦 和幸 (文部省学術国際局研究機関課専門職員)	
4月19日	TSERENDORJ, Dagvadorjiin (モンゴル, 文化省副大臣), AYUSH, Tseel (モンゴル, 国立歴史博物館), 鶴本 正三 (ツルモトルーム代表)	
4月22日	RAUNIG, Walter 夫妻 (ドイツ, ミュンヘン国立民族学博物館長)	

- 王 承 典 (中華人民共和国, 山東省文化庁副庁長), 魯 文 生 (山東省文物局文物処処長), 文 善 常 (山東省文化庁外事処科長), 李 榮 (山東省外事弁公室アジア処科長), 上田 秀夫 (山口県立萩美術館・浦上記念館), 渡邊 昌宏 (大阪府立弥生文化博物館学芸課長)
- 5月9日 岡村 泰孝 ((財) 国際民商事法センター理事長), 金子 浩之 ((財) 国際民商事法センター事務局長), 小木曾國隆 (法務総合研究所総務企画部長), 島本 喜章 (法務総合研究所総務企画部付検事), 小島 透 (法務総合研究所企画課企画第一係長), 小見山道有 (大阪高等検察庁総務部長検事), 堀内 康之 (大阪高等検察庁企画調査課企画調査係長)
- 5月14日 福岡県久留米市議会議員一行
- 5月21日 フェルナンデス (在大阪・神戸フィリピン共和国総領事館領事), タバウ (在大阪・神戸フィリピン共和国総領事館)
- 5月23日 アメリカ・ウィスコンシン州立大学ミルウォーキー校建築都市計画学部学生一行
- 5月25日 マイケル・ヘイマン夫妻 (アメリカ合衆国, 米国スミソニアン協会長官), パクター (米国スミソニアン協会補佐官)
- 5月30日 SIEGEL, Bernard J. 夫妻 (アメリカ合衆国, スタンフォード大
- 学人類学部名誉教授), 小泉 潤二 (大阪大学人間科学部教授)
- 林 清 富 (台湾, 順益台湾原住民博物館董事長), 游 浩 乙 (順益台湾原住民博物館總幹事), 土田 滋 (順益台湾原住民博物館館長)
- 5月31日 大西 章英 (徳島県議会議員)
- 6月3日 U YE Tint (ミャンマー, 「チェーモン」紙編集長), 田中 紀子 (外務省南東アジア第一課事務官)
- 6月7日 HORNPOSTEL, Wilhelm (ドイツ, ハンブルク美術工芸博物館館長)
- 6月10日 MAUNG, Maung Khine (ミャンマー, 文化大学学長)
- 6月13日 SANVICTORES, Benjamin F. (フィリピン, フィリピン大使・フィリピン独立百周年記念委員会国際関係委員会議長), ANGARA, Gloria M. (フィリピン独立百周年記念委員会国際関係委員会副議長), GARCIA, Victor G. III. 夫妻 (在大阪・神戸フィリピン総領事館総領事), FERNANDEZ, Armando B. Jr. (在大阪・神戸フィリピン総領事館領事), GAMBOA, George N. (在大阪・神戸フィリピン総領事館文化情報職員), TABAO, Henry H. (在大阪・神戸フィリピン総領事館)
- 筑紫 勝磨 (大阪税関長), 玉置 修 (大阪税関総務部関西

国際空港対策室)

6月21日 大学院博士課程を置く国立大学
教育学部長会議一行 小出 達
夫 (北海道大学教育学部長),
菊地 孝文 (北海道大学教育学
部事務長), 不破 和彦 (東北
大学教育学部長), 沼田 新一

(東北大学教育学部事務長),
桑原 敏明 (筑波大学教育学系
長), 福田 正 (筑波大学総
括専門官), 浦野東洋一 (東京
大学教育学部長), 鈴木 宏治
(東京大学教育学部事務長),
日比 裕 (名古屋大学教育学
部長), 三浦 眞 (名古屋大
学教育学部事務長), 上杉 孝
實 (京都大学教育学部長), 竹
原 晃 (京都大学教育学部事
務長), 小笠原道雄 (広島大学
教育学部長), 天島 五三 (広
島大学教育学部事務長), 大野
博之 (九州大学教育学部長),
石松 博行 (九州大学教育学部
事務長), 友田 泰正 (大阪大
学人間科学部長), 中島 義明
(大阪大学教授), 山口 節郎
(大阪大学教授), 伊藤 宏
(大阪大学人間科学部事務長)

6月27日 田波 耕治 (大蔵省理財局長),
竹田 伸一 (大蔵省理財局総務
課文書係長)

6月28日 タイ王国カルチャーコミッショ
ン一行

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは、編集委員会にて処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 21卷2号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

江 口 一 久

佐々木 史 郎

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

杉 本 良 男

長 野 泰 彦

林 勲 男

吉 田 集 而

平成9年1月14日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 21卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.21 no.2
1996

AKAGI, Osamu
AKIMICHI, Tomoya
FUMIITO, Akishinonomiya
TAKAI, Yasuhiro

An Ethnoichthyological Study of *Pla Buk* (*Pangasianodon
gigas*) at Chiangkhong, Northern Thailand

OBAYASHI, Taryo

The Kucong in Yunnan and Hunter-Gatherers in Northern
Indochina: Do They Represent an Old Cultural Tradition or
a Case of Cultural Devolution?

KOSUGI, Yasushi

Ethnographic Reconstruction from the Material Culture of
the Kuril Ainu

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka Japan
phone 06-876-2151